

第6号 稲作管理特報

平成29年7月7日
朝 日 町
黒東地域農業技術者協議会

コシヒカリの生育は、ほぼ平年並みに推移しており、幼穂形成期は7月15日頃と見込まれます。ほ場ごとに生育が異なるので、穂肥は、草丈・葉色・幼穂長を確認して的確に施用しましょう。

コシヒカリの生育状況（みな穂管内）(田植日：5月13日)

年度	調査日	草丈	茎数		葉色	葉齢	幼穂形成期
			株当たり	m ² 当たり			
H29	7/4	52.6	26.5	535	4.2	10.9	(7/15)
H28	7/5	63.9	22.4	455	4.0	11.4	7/9
平年	7/1	54.2	25.6	482	4.3	10.8	7/14

※ 基肥一発肥料施用田を含む

1. コシヒカリの穂肥

… 1回目は慎重に！ 2回目は確実に！

【幼穂形成期の生育量の目安】

幼穂2ミリ確認時（7月15日頃）		
草丈	茎数	葉色
72cm	470本/m ²	3.8



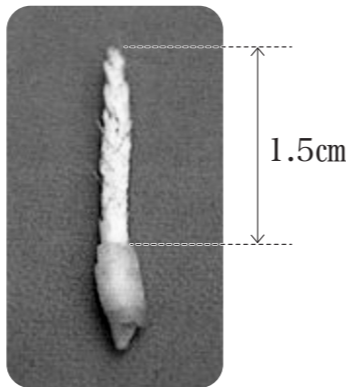
【分施肥体系（基肥BB206）の場合】

- 1回目の穂肥は、必ずほ場ごとに幼穂・草丈・葉色を確認して施用しましょう。
- 2回目の穂肥は、粒の肥大を良くし、米の品質低下を防ぐ効果がありますので、確実に施用しましょう。

＜穂肥施用時の生育量の目安＞

(幼穂形成期:7月15日頃 出穂期:8月7日頃)

穂肥	第1回目	第2回目
草丈	82cm	—
施用時	幼穂長	1.5cm
	葉色	3.6
施肥時期	7月23日頃	7月30日頃
2回体系の場合	肥料名	NK化成C-12号
	施肥量	10kg / 10a
1回体系の場合	肥料名	LP追肥38号
	施肥量	15kg / 10a

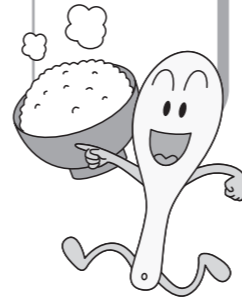


穂肥施用時の幼穂

※ 1回目穂肥時の葉色が「3.8～4.0」のほ場では、施用時期を2～3日遅くするか、施肥量を7割程度に減らす。

※ 「4.0」より濃いほ場では、1回目は施用しない。また、LP追肥38号は使用をやめ、2回目の追肥時期にNK化成C-12号を12kg/10a施用する

穂肥は、ほ場ごとに生育を確認して、慎重に行いましょう！



【基肥一発肥料の場合】

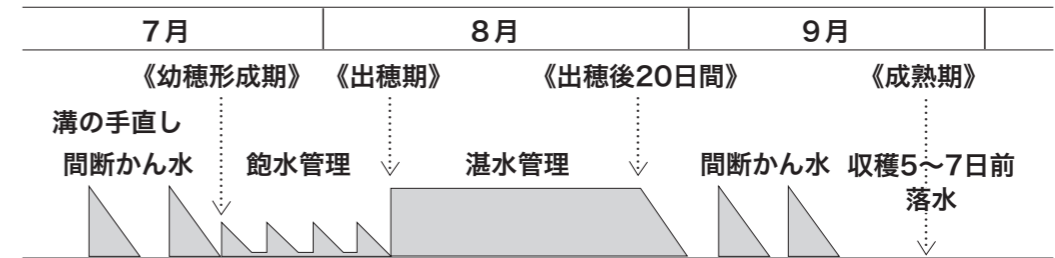
- 穂前期の葉色が淡いと、登熟期が高温になると収量や品質が低下する恐れがあります。（8月、9月は高温の予報が出ています。）
- 出穂10日前（7月28日頃）に、葉色が4.0（洪積土3.8）未満の場合は、NK化成C-12号で5～7kg/10a施用しましょう。

2. これからの水管理

… 高温でも夏バテしない水管理！

- ① 出穂期まで：飽水管理を徹底し、稲の活力維持に努めましょう。
※ 飽水管理：落水期間を短くし、足跡に水が残る程度のヒタヒタ水状態を保つ。ただし、4日以上、水が滞っていたら落水する。
- ② 出穂後：田面が出ない程度に水を張り、20日間の湛水管理を行いましょう。
・水をためっぱなしにせず、定期的に水の入替えを行う。
ただし、かけ流しは、絶対にダメ
(例)5日に一回程度入替え…地域の用水事情に応じて実施する。
- ③ 湛水管理終了後～刈取り7日前まで：間断かん水で、活力維持に努めましょう。

○ 今後の水管理



※ フェーンが予想される場合は、早めに入水する。
※ 入水する場合は水尻を止めて、かけ流しは絶対に行わない。

3. 雑草地のカメムシ対策

… 出穂前にエサ場である雑草地をなくそう！

- (1) 一斉草刈り後は、雑草の穂が出ないように管理しましょう。
- (2) 大麦跡等の雑草やエン麦のすき込みは、早急に行いましょう。

4. 病害虫防除

… 一斉防除で効果を高めましょう！

【コシヒカリの一斉防除予定：生育の進みに合わせて、後日、防除特報を発行します。】

防除月日	農薬名	散布量
〔1回目〕 8月2日～4日頃(出穂直前)	ブラシントレバリダ粉剤DL (紋枯病、ウンカ類、カメムシ類、ニカメイチュウ)	4kg/10a
〔2回目〕 8月10日頃(穂前期)	ラブサイドクラップ粉剤DL (いもち病、ウンカ類、カメムシ類)	4kg/10a